

# TADASHI KAWAMAMATA

TOKYO

IN

PROGRESS

DOCUMENT2010



川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め  
ドキュメント2010

# TADASHI KAWAMATA

TOKYO

IN

PROGRESS

DOCUMENT2010



川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め  
ドキュメント2010



# Contents

- 06 . 東京インプログレス2010 | 川俣正  
Tokyo in Progress 2010 | Tadashi Kawamata
  
- 08 . [対談] 谷川俊太郎 × 川俣正  
二つの塔をめぐる,二人のおはなし  
[Talk] Shuntaro Tanikawa × Tadashi Kawamata
  
- 16 . プロジェクトドキュメント2010  
Project Document 2010
  - Workshop01  
手のひらの塔 | Palm-Sized Towers
  - Workshop02  
塔の影 | Making a Tower's Shadows
  - Workshop03  
塔のおはなし | Story About a Tower
  - Workshop04  
アートコンストラクター講習会 | Art Constructor Training
  - 塔を建てる | Shioiri Tower Construction
  
- 38 . ワールドインプログレス | ナント / エッセン / カマルグ / リヨン  
World in Progress | Nantes / Essen / Camargue / Lyon
  
- 46 . プロジェクトスタッフ&サポーター  
Staff and Supporters





## 東京インプログレスとは

---

世界的なメトロポリス都市である東京を、ワークショップ、シンポジウム、トーク、共同制作などの活動を通じて再考するプロジェクトです。多様な人びとが集い、ともに作業を行い、その場に時間と空間の経験が集約されるなか、「東京」という都市の新しい可能性が見出され、展開されることを意図しています。

## What is Tokyo in Progress?

---

It is a project to reexamine Tokyo, the world-class metropolis, through workshops, symposiums, talks, collaborative works and other activities. The project is designed to gather people from a wide range of fields, discover and develop new possibilities of the city from the accumulation of the spatial and temporal experience gained through the activities.



## 東京インプログレス2010

東京に新たなシンボルが現れつつある。2012年に完成予定の新電波塔「東京スカイツリー」は第2の東京タワー、新しい情報配信源、そして都市の新名所として注目され、隅田川河岸に新たな景観をつくりだしている。

戦後60年間で一気に経済成長を遂げてきた東京は、人、物、情報を膨大に取り込むことで物質的な豊かさを獲得し、都市の表情をめまぐるしく変貌させてきた。しかし、永遠とも謳われた経済成長も幻影と化し、今は新たな方向性を模索するときとなっている。この時期にスカイツリーが建設されるのはその意味でも象徴的である。新しく立ち上がるファロス(塔)の図像は何を象徴するだろうか。世界における東京は、変化している。幾層の変化にさらされる時流のなかで、今「東京」について改めて考えてみたい。

川俣正

## Tokyo in Progress 2010

A new symbolic structure is being built in Tokyo. The Tokyo Sky Tree, a new broadcasting tower that is scheduled to be completed in 2012, is gaining attention as the second Tokyo Tower, the new source of information distribution, and Tokyo's newest tourist attraction, and is creating a new landscape along the Sumida River bank. Tokyo's economy grew at a dramatic speed over the sixty years following World War II. By taking in massive quantities of people, goods, and information, it achieved great material affluence and has taken its landscape through changes at a mesmerizing rate. However, the economic growth that people once believed would continue forever has become an illusion, and the city has now reached a stage in which it needs to search for a new direction. As such, for the Tokyo Sky Tree to be constructed right at this time is a symbolic event. What will the newly built icon represent? This global city of Tokyo is going through great transition. At this point in time, as we find ourselves exposed to many layers of changes, I would like to reexamine this city.

Tadashi Kawamata



## 【Talk】

# Shuntaro Tanikawa × Tadashi Kawamata

【対談】

谷川俊太郎  
×  
川俣正

### 二つのタワーをめぐる、二人のおはなし

東京都墨田区で行われている東京スカイツリーの建設を契機に、川俣正が隅田川対岸にある荒川区内の都立汐入公園で独自のタワー建設プロジェクトを実行した。また、時を同じくして詩人・谷川俊太郎氏は東京スカイツリーをテーマに絵本制作を始めている。二人のアーティストが東京スカイツリーを通じて現在の「東京」を考える。

川俣正「東京インプログレス」汐入タワーイベント  
日時：2011年7月2日【土】16:30-18:00  
場所：荒川区立汐入小学校多目的室

Prompted by the building of the Tokyo Sky Tree in Tokyo's Sumida Ward, Tadashi Kawamata commenced his own tower construction project at the Metropolitan Shioiri Park in Arakawa Ward, which is located on the other side of the Sumida River. Around the same time, poet Shuntaro Tanikawa had started creating a new picture book based on the theme of the Tokyo Sky Tree. Through the common topic of the Tokyo Sky Tree, the two artists talk about today's Tokyo.

Dates: Saturday, July 2, 2011 [4:30-6:00 p.m.]  
Venue: Multipurpose Room, Shioiri Elementary School, Arakawa Ward

### 二つの塔をめぐる

谷川 ● 今日初めて汐入タワーに登って見たのですが、傾斜がすごく気持ちいいですね。細い栈みたいのが効果的で、すごく登りやすく、さっきはベビーカーもちゃんと登ってましたから。車いすも登れるっておっしゃってましたね。

川俣 ● 今回のタワー建設作業で特徴的なのはスロープなんです。あれは地元の木材屋さんの伝手で宮大工の人を紹介してもらいその人がやってくれました。そのあたりの作業はやはり僕らだけではできなかったですね。でも、残りの作業はみんなでやりました。自治会の平山さんは85歳で元々大工の仕事をされていて5年前に引退されたのですが、今回はボランティアの大工さんとしてほぼ毎日のように来てくれました。僕らが朝、現場に行くといつも先に着いていて待っていました。平山さんだけではなく地元の人がとに本当に助けられました。

谷川 ● 螺旋状に登っていくのはバベルの塔の絵にもありましたね。汐入タワーは「ミニバベルの塔」かな。バベルの塔は神に近づきたいから天に昇って行くという意識があったけれど、川俣さんにはそういう意識はないんでしょう。

### The Two Towers

Tanikawa ● I saw the actual Shioiri Tower today. I felt that what you are doing is very close to the situation I'm in and the direction I want to go towards, and this pleases me very much. The Tokyo Sky Tree is a project for the city of Tokyo, but it is almost seen as a nation-wide project. That's why it's even trying to compete, height-wise, with places like Dubai, right? That means a great deal of money has to get poured into it, and a large number of people are involved in it. I think it is really great that you are comparing that kind of a tower with the Shioiri Tower which is almost like a handmade structure. And, to borrow some dated terms, people might call it "anti-establishment" or "counterculture." Because it is made of wood, I get a sense of "hippiness" from it. I thought this project was interesting in that, unlike the anti-establishment behavior that might involve

川俣 ● ないですね。それよりも、「見渡せる」という感じがですね。やっぱり対岸にスカイツリーができていくさまをあそこでぼんやり見るという感じがですね。

谷川 ● 一種のカウンター・カルチャー的建築というような考えもあったんですか。

川俣 ● まあ、カウンターカルチャーというよりも単に大きな作品をつくりたかったんですね。

谷川 ● どういう作品？本当は安藤忠雄さんみたいになりかった？(笑)

川俣 ● いやいや。要するに僕は大学のときに油絵を描いてたんですが、油絵に行きづまってしまい、もう少し体を使って何か作品をつくりたいと思って一人でつくり始めたんです。でもやはり一人ではなかなか大きなことができないのです。それで色々な人に手伝ってもらってやっていくうちに今度は逆にその手伝ってもらうこと自体に興味が出てきたんですね。例えば、演劇とか本とかもそうですよね。アンサンブルとかいろいろな人の力をあわせてつくっていく感じです。それにすごく興味がありません。

谷川 ● 汐入タワーをインターネットで見たと時から、詩と建築はジャンルは違うんだけど、これはなんか今自分が置かれている状

people getting hysterical and making threats with guns, this has a relatively soft approach, as if it's trying to fake the Sky Tree out. Kawamata ● You are very incisive! (laughs) As I am not part of the baby-boomer generation, I don't have the anti-establishment attitude. But rather than just quietly watching the Sky Tree go up, I wanted to find a way to somehow take part in it. Like it or not, the construction of the Sky Tree is going to change the Tokyo landscape. There certainly have been great changes in surrounding areas, but the giant tower is making this sudden, dramatic appearance. I was thinking about what I might be able to do in response to it. That was my very first motivator.

Tanikawa ● I am currently working on a picture book about the Tokyo Sky Tree as well, but my attitude for this project is quite similar to your Shioiri Tower. To be honest, there is a part of me that is making fun of the Sky Tree a little bit. In the picture book, the Sky Tree is personified but turns out to only be a

況や自分の目指したいところにすごく近い感じがして、親近感が湧いたんです。川俣さんはどう意識しているかわかりませんが、東京スカイツリーというのは東京のプロジェクトですが、ほとんどナショナルプロジェクトに近いですよ。それでドバイなんかと高さ競争までしているわけでしょう。高さを競う人間の気持ちというのはどこか可愛いと思うのですが、でもそこにはものすごいお金がかかっているし、たくさん人間が関わっているわけです。そういうスカイツリーと手仕事のような汐入タワーを比較させているのがとてもいいですよ。それは昔風に言うところの反体制とかカウンターカルチャーですよ、そんな区別はもうないかもしれないけど。木を使うから僕なんかはヒッピー的なものを感じてね。昔の反体制みたいに癩癩起こして、拳を振りあげてというのではなく、わりと柔らかく、スカイツリーにフェイントをかけている感じが面白いなと思いました。

川俣 ● さすが鋭いですね(笑)。まあ、僕は全然団塊の世代とかではなく、やはり反体制とかではないです。でも、スカイツリーが完成して行く様子を黙って見ていないで、自分が何かそこに参加できないかなと思ったんです。やっぱりこのスカイツリーの建設で東京の風景が変わるわけですよ。すでに周辺地域も含めてか

dream that a child has. The tower is personified in many ways—a monster climbs up it, it walks around with the Eiffel Tower on its shoulders, and it sometimes does cartwheels or lies down to take a nap.

Kawamata ● I made palm size models of the Shioiri Tower with some children and afterwards, we also created a picture book.

Tanikawa ● I had heard that and that is what inspired me to create mine.

Kawamata ● Is that right? So a picture book about the Shioiri Tower came a bit before yours (laughs).

### Disappearing Works

Tanikawa ● The Shioiri Tower will be demolished at the end, won't it? I really like that part. I feel that your plan to construct it while already having its demise in mind is quite a contemporary

なり変化は起きていると思うけれど、あの巨大なタワーがどーんと突然出てくる。それに対して何かできないかというのが最初のきっかけでした。

谷川 ● 僕らが今つくっている東京スカイツリーの絵本もちょっと汐入タワーと態度が似てるんです。僕も実を言うとちょっとスカイツリーをからかってみたいところがあるんです。スカイツリーを擬人化して、それを主人公の子どもが見た夢ということにしています。スカイツリーをいろんな形で擬人化して、スカイツリーに怪獣が登ったり、エッフェル塔を肩車して歩いたり、たまにスカイツリーが逆立ちして、また横になって寝ちゃったりしてます。実際、寝ちゃうと大惨事になるから(笑)。擬人化してやってみました。一応、スカイツリーの会社にお伺いを立ててみたら、「こういう擬人化ならいいであろう」ときちんとお墨付きをもらっています(笑)。

### 消えていく作品

谷川 ● 汐入タワーも最後は壊されるんですよ。僕はそこがすごく好きなんです。なんかその消滅するところまで視野に入れてつく



られるところがとても同時代的だと思います。というのは、今、我々の世界で言うと文学がストックにならなくなってる。全部フローになって流れていくんですね。実際に書店の棚を見てもわかるんだけど、新刊が置かれている時間がすごく短い。どんどん、どんどん流れていきますよね。昔のやっぱり名作、例えば夏目漱石、宮沢賢治なんかはちゃんと古典として今もストックされていますけど、現代の小説が本当に古典のストックになるかどうかかわからない感じですね。僕も後世に残るものを書こうって気が全くないんです。この時代にそれを味わって楽しんでくれれば、どんどん無くなって行ってもいいとも思う。そういうフローの感覚は木造の建築にもあるような感じがして、そこにも共感できるところがあるんです。

**川俣** ● 無くなるというよりも、僕の作品の場合はリサイクルできませんからね。木材はビスを抜いてまた使おうと思えば使えますし、そういう意味で解体するのとつくるのはあまり変わらないんです。解体するとまた新しいのをつくれるなって感じがして、終わりが始まりにつながってる気がします。

だから「制作中」という状態が僕の中で非常に重要なところがあって、どうやってつくるか、誰と一緒にやるのか、どこでどういう風にスムーズにやってくかの過程が大事ですね。確かにどんどん変

わっていきます。色々な人からずいぶん色々なアイデアをもらったりしてそれをどんどん変えてきたりして、たまにこれは無理だなと思うときもあるけれど、それで変わっていく過程もすごく面白いなと思うんですよね。

**谷川** ● 当然そうでしょうね。我々の詩の世界で言うとワークシートっていうのがあって、一篇の詩が最初の段階から推敲されていく過程でどんどん変わっていくのがわかるんですが、欧米の詩人なんかはタイプした原稿は全部保管してあるそうですよ。小説とかもそうらしいです。それを大学図書館に売ったりして。僕は残念ながら全部消しちゃって決定稿をUSBメモリに入れてるだけだから文学館に展示しても全く何も見られない(笑)。そういうワークシートって考え方はすごく面白いんですけど、僕はやっぱり推敲する段階で全部消したい。

**川俣** ● やっぱり最後だけとっておく感じですか。

**谷川** ● 最後だけです。途中を残しておくことにちょっと自分のなかで抵抗があるんですね。というのは、最終的によくなるって信念がないと推敲できないでしょう。だから、途中の分は深く捨てる。

**川俣** ● 推敲にずいぶん時間をかけますか。

**谷川** ● 僕は手書きからワープロでキーを打つようになって、詩を

つくるのにすごい時間をかけるようになりました。鉛筆書きで原稿用紙に書いてると、消しゴムで消すとゴミはたまるし、紙は破れるしで「もうこれでいいや」って思っちゃうんだけど、ワープロになってから節と節の入れ替えとかが簡単になって、今では大体1日か2日でたたき台を書いてほとんどひと月以上かけて毎日のようにコンピュータ開けて直してますね。

**川俣** ● 詩人の方ってどういうときにどういう風に詩をつくるのかなと思ってたんです。谷川さんの場合はどうですか。

**谷川** ● 僕は詩を書くときは机の前で座って待っています。時間帯はいつでもいいんです。詩を書く気になったときや、あるいは締切が迫ったときでも何でもいいんだけど、とにかく「詩を書こう」と決めて机の前に座って自分を空っぽにするんですね。ちょっとオーバーに言えば座禅とか瞑想みたいかな。そのとき自分の意識下からぼこっと出てくる言葉を書いてみます。注文が先にあってテーマとかあったりすれば、なんとなくそれは自分のなかにあるんだけどそれを意識に上らせないようにする感じですかね。なんかすごい説明的になってるんですけど(笑)。

それをできるだけ潜在意識の方に沈めておいて、言葉を待つ、自我じゃないものにお任せするみたいな。なんか「ぼこっ」と、イメー

flow for the rest. I create the idea for the project myself, and after that, I decide on things like how to do it and who to do it with as things roll forward.

I do sometimes get told by architects and engineers things like “That’s impossible,” or “It won’t hold up structurally.” The greatest feature of the Shioiri Tower is its slope. It was built solely by a local temple builder.

**Tanikawa** ● The spiral slope allows strollers and wheelchairs to go up the tower, too, doesn’t it? The incline is great. The spiral was also found in the picture of the Tower of Babel. The Tower of Babel involved the idea that people were climbing toward the sky in order to get closer to God, but you had no such ideas for your tower, did you?

**Kawamata** ● No. Rather than that, the idea was more like to lazily gaze at the Sky Tree on the other side of the river as it got built.

**Tanikawa** ● Was there any element of counter-cultural

ジでも言葉の調べみたいなものでも、2, 3行出てくると、そこからは相当意識して連想とか、言葉の音の面白さとかでつなげていくんだけど、意識下から出てくるものと自分の意識と交互に使いながら書いていく感じですね。川俣さんのほうはどうですか。木で物をつくるって。

**川俣** ● 割と近いですね。集中するまではフラフラしてます。たぶん何か考えようとし始めると大体ぼーっとしてますね。

**谷川** ● じゃあ、理詰めじゃないんだね。

**川俣** ● 全く違いますね。ただ、夜中になって家がしんとなって「そろそろいいかな」というくらいのときに少しアイデアが出てきて、なかなか面白いものができたぞと思っても、次の朝になってそのアイデアを見返してみたら、すごくつまんなかったりもします。

**谷川** ● それはありますよね。詩もそうなんです。なんか夢遊病的に書いてたものでせつかくいいのができたと思っただけれど、あとで見ると全然ダメだったこともありますね。

**川俣** ● あと、お酒を飲んで酔っ払ったときの勢いで考えて、結構いいのができたと思ってたら、酔いが醒めたあと見たら全然つまんなかったりすることもよくありますよね。

**谷川** ● そうか、似てるんだね。でも、書いたあとの処理っていうか

architecture to it?

**Kawamata** ● I would say, rather than having any countercultural urges, I simply wanted to make a large piece of work. When I was in college, I created oil paintings, but I hit a wall with it. I then felt that I wanted to use my entire body more to make something. I started off doing things alone, but it was quite difficult to try to make something all by myself. I began making things with the help of various people, and after awhile, I started getting more interested in the collaborative aspect itself. This is something that is true for theater and books as well, isn’t it? Many people work together to create something.

## World Beyond One’s Own Domain

**Kawamata** ● You have recently been creating electronic books

作業が全然違うよね。建物をつくるのでは、スケッチを描いたあとにいろんな人を巻き込んで構造の計算とか予算の問題とか色々あるわけでしょう。

**川俣** ● そこらへんはいろんなスタッフがいるので僕自身が独りで全部するわけではないのですが、まず僕の場合はこちらと色々な人と関わりながら進めるところがあって、最初のきっかけだけ出して、あとは流れに任せる感じです。今回はスカイツリーが川の向こうにできたから、じゃあツリーとマッチするような塔をこちら側に建てようか、とそんなアイデアを出すまではやって、そこから先はどうするかとどうやってつくるかあるいはどんな人とつくっていくとか、そういったことはプロジェクトを進めながら考えていきます。やはり建築家に話をすると「そんなの無理だよ」と言われたり、エンジニアの人に「これだと構造的に持たない」と言われたりします。だから、逆に詩とか一人でつくる作品はどうやって作品づくりをしていくのだろうとずっと気になってましたね。

**谷川** ● 詩の世界でコラボレーションといえば、連詩っていうのがあって一室に5人くらいが集まって、酒飲みながら短い詩を書いてつなげて一つの長い詩にすることはあるんだけど、でも詩っていうのは基本的にやっぱり一人ですね。だから、建築では多くの人を

and collaborating with those in different genres, haven’t you? You have also published many picture books as well.

**Tanikawa** ● The world of poetry is a bit cloistered. I dislike that, so I wanted to get involved in completely unrelated genres as well. Also, poetry doesn’t bring in much money, so one needs to look to other industries. So from the onset, I did many different things like making picture books, writing scripts for documentary movies, and working with magazines. But recently, I’ve been doing a lot of custom orders. It is possible to create poetry through stimulation from others. People seem to get disappointed when they hear that (laughs). There’s a similar aspect to architecture, isn’t there?

**Kawamata** ● There are times when I begin thinking about it after I receive an order. But sometimes I cannot even get any orders unless there’s some kind of a catalyst. Although I had been living in Tokyo for 30 years, when I got a request to get

巻き込んだり、材料とか必要経費がきちんと出るでしょう。でも、我々の商売ではそんなのが全然ないんですね。紙と鉛筆だけで済んじゃうから。

**川俣** ● いや、詩人の人はどうやって生活しているのかわからないところがありました。質問しづらいところなんですけれどね。

**谷川** ● そうね。その意味では全然お金を使わないでお金をいただいているという申し訳ない商売なんです(笑)。でも詩だけじゃ食えません。詩+アルファが必要ですね。雑文とか翻訳とか。

## 境界を越える

**川俣** ● 谷川さんは最近、電子書籍も手がけられていて、本当にいろんなことをやってらっしゃいますよね。また、谷川さんは他ジャンルとのコラボレーションもされていますよね。絵本もたくさん出版されていますし。

**谷川** ● 詩の世界はちょっと閉鎖的なんです。それが嫌で違う世界でやりたいと思ったし、また詩はお金にならないから外の業界に出て行かないとダメなんですよ。だから最初から絵本とか記録映画の脚本とかラジオ・テレビとか色々なメディアでやってま

involved in the Tokyo In Progress project, that is when I really started thinking about Tokyo. It made me realized that I actually hadn’t really been looking. The first catalyst was the Tokyo Sky Tree for me. For you, the first catalyst was words? Do words themselves draw your interest?

**Tanikawa** ● Rather than “words” being the catalyst, I believe humans are made of words. But ever since I was young, I have been very dubious of words themselves, and I still am. This is because I feel that words actually only represent one aspect of reality. Poetry is a way to take things in reality that are vague and abstract and somehow express them with words. That’s why they are sometimes considered difficult to understand.

Sometimes I feel a sense of disgust because “meaning” has come to carry so much weight in today’s world. People are motivated by meanings, aren’t they? I feel that they use meanings at a very superficial level and don’t try to deepen them or cultivate

したね。今では、紙だけでなく電子メディアなど横に広げるようなこともやっています。ただ、僕はすごく飽きっぽいんです。ある形で書いてると「こんなの書いててもしょうがねえな」って気持ちになっちゃって、なんか自然に次の違う書き方になっていますね。あと自分から仕事をするのがほとんどないですよ。全部、注文制作なんです。だから、顕微鏡で読む詩をついたり電光掲示板で読む詩をついたりっていうのも、僕のなかにそういう新しいメディアに対する好奇心は当然あるんだけど、やっぱりいろんな人たちが「こういう仕事はどうか？」みたいなことを言ってくれるところがあって、それでいろんなことをやっていますね。自分自身は仕事に対して消極的な人間だと思います。言語の本質とも言えると思いますが、他との関係のなかで言葉は出てくるんですね。建築もそういうところはないですか。

**川 俣** ● オーダーがあって初めて考えることがありますね。

**谷 川** ● そうですよ。僕もオーダーがあって初めて書けます。でも、それを言うとみんなががっかりするらしいんです(笑)。

**川 俣** ● でも、何かきっかけがないとオーダーも受けられない場合もありますよね。僕は東京に30年間住んでいましたが、東京インプログレスの依頼が来たとき、改めて東京のことを考えました。実

際はたしかにちゃんとよく見てなかったということがわかったし、そのきっかけはスカイツリーだったのですが、谷川さんの場合は最初のきっかけはやっぱり言葉ですか。言葉そのものが気にかかりますか。

**谷 川** ● きっかけというよりも、僕は人間というのは言葉でできていると思ってるんです。ただ、若いころから言葉自体をすごく疑っていて、今でも疑っています。言葉は本当に現実のごく一部分しか表現できない気がして、例えば矛盾っていう言葉がありますよね。善悪とか美醜とかって対立する二つのものが言葉では出てきますよね。でも実際にはその二つが矛盾しつ一つになって存在しているのが現実だと思うんです。言葉はどうしても分けて名前をつけないと言語として定義できないところがあって、詩はむしろそういう現実の曖昧模糊としたもの、多義的なもの、むしろ言語以前のものをどうにかして言葉にしようとするところがあります。それでときどき難解だとか言われるようになるんですけどね。

**川 俣** ● うちの子どもは谷川さんの絵本『ぼば一へぼびぱっぶ』(クレヨンハウス刊)が好きなんです。全く脈絡のない「ぼびぶべぼ」の音だけで子どもがすごく喜ぶのです。

**谷 川** ● 子どもはそういう身体に即したオノマトペ的な言葉に敏感

ですね。

**川 俣** ● そうですね。夜寝るときに「べぼびぱっぶ」って言ってから寝ます(笑)。

**谷 川** ●僕はやっぱり今の世の中は意味が過剰になっていてイヤになることがあるんです。みんな意味で動くでしょう。意味を非常に表層的なところで使っている感じがして、その意味を深めるとか自分にとっての意味を探るとかしてないって気がしてね。僕は最近ノンセンスというのを大事に考えてるんですよ。世界の始まりがビッグバンだか何か知らないけど、そういう時期には全く言葉もなくて意味もなかったわけじゃないですか。それから有機物ができ、生命が生まれ、魚から哺乳類になって人間になって、人間が生まれてまたしばらくして言葉が生まれ、そこで初めて意味が生まれたわけですよ。意味は世界の始まりから遥かあとに来ているんだけど、みんなその意味にとらわれて本当の存在の肌触り、言葉以前の世界の質感みたいなものを忘れちゃってるし、そこに立脚しようとしなところがあるんですね。例えば、宮沢賢治は「無意識即から溢れるものでなければ多く無力か詐偽である」と言うんですね。意識下から出てきたものでなければもう全部ウソだって言い方をするのね。たぶん我々詩を書く人間は、今の言語よりもつ

と前から存在するものに迫りたい気持ちはずっと持っているんじゃないかと思うんですね。汐入タワーには、今のいわゆるグローバルな経済が追及している効率や機能からはかなり離れていて、どちらかといえばノンセンスとユーモアを感じるんです。それで何となく共感しちゃうんですよ。

**川 俣** ● まあ自分の中でやっぱり効率とか経済だけでやっていってもつまらないな。やっぱりつまらないというのがどうしようもなくありますね。自分でどこかで楽しめていないとやっぱり面白くないし、やった人が楽しまない絶対いいものができないという考えがあります。だから、みんなで作業しながら現場で一緒に自炊したりして、楽しみながらやっています。

**谷 川** ● いいですねえ。大工さんも一緒に自炊とかしながらやっています。そういう楽しい時間を関わってる人が共有できるのもプロジェクトの面白さでしょうね。それは海外の場合でも同じですか。

**川 俣** ● そうですね。最初みんなで食事をするためのテーブルとベンチをつくって、毎日そこに集まって作業を始めるんですね。何も決まっていなかったときはそこで「じゃあ何をつくろうか」という話から始まる時もあります。

**谷 川** ● 最初に設計図とかもないの？

**Kawamata** ● There are times when I get annoyed because I want the idea to be left alone since it had finally reached its maturity. But since it is not something that I can do alone, it cannot be helped that many people to get involved in it. At the same time, I don't want to make something I don't want to because of other people's involvement, so I might at times get into a big argument so that we can make something we want. Unless we accept such big pain-in-the-neck issues, we won't be able to carry the project forward, so the most time is taken up in trying to figure out how to change them. But I believe those pain-in-the-neck issues are also part of the process of creating something.



いですね。でも他人が入ることですぐに作りたくないものをつくるのはいやですからね。どこかで自分たちがつくりたいものをつくるために喧嘩もします。そのウザったさを受け入れないとプロジェクトは前に進まないの、それをどうやって変えていこうかが一番時間がかかりますね。でも、そういうのも含めてつくっていいことかと思えます。

対談の途中、谷川さんがこの日のために書いた、塔にまつわる2篇の詩を荒川区立汐入小学校の小学生2名と一緒に朗読をした。

次頁



触る

木に触ると

木はざらざらなのにほんわかしてる

石に触ると

石はごつごつで冷たいけど氷とは違う

鉄に触ると

鉄はつるつるで硬いけどいつかは錆びる

こんなにやくに触ると

ぶるんとふるえてなんだか怒ってるみたい

言葉に触ると

触れる言葉もあるけど触れない言葉がいっぱい

瓦礫に触ると

ガレキにならないものが心の中にあることが分かる

空気に触ると

いつも触ってるから有難みが分からない

土に触ると

どうして懐かしい感じがするんだろう

川に触ると

明るい水平線が見える 暗い海底が見える

人に触ると

好きか嫌いかわすぐ分かる

赤ん坊に触ると

笑いたくなる泣きたくなる

宇宙に触ると

空気に触るとおんなじだ ここが宇宙だから

高い低い

腹這いになると蟻に会える

自分の目で

座っていると友達と目が合う

雑草を見ます

地面に立つと地球を踏んづけてる

家を隠す塀を見ます

高くない塔に上がると町が景色になる

電気を運ぶ高圧線を見ます

もっと高い塔を上っていくと樹になりたくなる

ビルの彼方の山脈を見ます

うんと高い塔に上がると入道雲が妬ましくなってくる

宇宙にぼっかり浮かぶ月を見ます

ヒトにちょうどいい高さってどのくらいなんだろう

宇宙ではもう高い低いの区別がなくなるよ

一番よくものが見える高さってやっぱり自分の目の高さかな

それっておもしろいこと？ つまらないこと？

どんどん高くなっていくとブラックホールに落ち込みそう

どんどん低くなっていくと素粒子になっちゃいそう



# PROJECT DOCUMENT 2010

## プロジェクトドキュメント2010

Project Document 2010

2010年の「東京インプログレス」は、都立汐入公園に佇む「汐入タワー」の建設と塔にまつわるワークショップを展開した。

タワー建設前に行った小学生とのワークショップでは手のひらサイズの塔や、塔の絵本を制作し、まだ見ぬ塔を思い描いた。またタワー建設にはアートコンストラクター講習会で技術を習得した参加者をはじめ、地域の方々の協力を得て工事は行われた。

塔を建てる人、塔の周りに集まる人の双方がプロジェクトを通じて出会い、日々新しい物語が生まれていくなかで完成した木造の展望塔「汐入タワー」。その展望台では、ゆるやかに流れる隅田川からの風が吹き、建設中の東京スカイツリーを背に変化し続ける東京の街並みを一望することができる。

### 汐入タワー

所在地：都立汐入公園 東京都荒川区南千住8丁目 水神大橋そば  
交通：JR常磐線・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス「南千住」駅下車 徒歩20分  
東武伊勢崎線「鐘ヶ淵」駅下車 徒歩10分

Tokyo in Progress 2010 was carried out with focusing on “Shioiri Tower Construction” and “workshops.” In the workshops, elementary school students created palm-sized towers, made up stories about a tower, and put together a picture book.

At the Shioiri Tower construction site, getting supported by Art Constructor trainees and the local residents, the tower was constructed. The tower is a wooden observation deck that was completed amid daily developments of new stories made through the meeting of two groups of people—those who were involved in building it and those who collected around it.

From the the top of the tower, one can view the Tokyo Sky Tree being built as well as the rest of the ever-changing Tokyo cityscape, while feeling the breeze coming from the gently flowing the Sumida River.

### Shioiri Tower

Location: Shioiri Park (Minami-Senju 8-chome, Arakawa Ward, Tokyo near Suijin-Ohashi Bridge)  
Access: 20-minute walk from Minami-Senju Station on the JR Joban Line, Tokyo Metro Hibiya Line, or Tsukuba Express; 10-minute walk from Kanegafuchi Station on Tobu Isezaki Line.



# Workshop

## 01

### 手のひらの塔

#### Palm-Sized Towers

鉛筆やボタン、貝殻やおもちゃなど子どもたちが持ち寄った材料で、手のひらサイズの自分だけの塔を制作。宝箱の隠れた海底の塔、音を奏でる楽器の塔、鉛筆の国の塔、想像を超えた不思議な出来事が起こる未来の塔、エナジーボールを発信するミラクル電波塔など、個性あふれる塔たちが完成した。

日時：2010年10月31日〔日〕

場所：荒川区立汐入東小学校体育館

参加児童：計99人

ワークショップアーティスト：

宮元三恵〔みやもと・みえ / 東京工科大学 准教授〕

2006年東京芸術大学美術学部博士課程修了。「BLISS」〔2003-04年、ノイス、ロンドン〕や南千住第二幼稚園でも実施した「NEST」シリーズ〔2010年〕など、知覚や体験に基づく子どもとの空間制作を日本とヨーロッパの各地で展開している。

Using the materials they brought such as pencils, buttons, shells, and toys, each of the children made his or her very own palm-sized tower.

There was an ocean-floor tower with a hidden treasure chest, a musical instrument tower that plays songs, tower of the pencil land, a futuristic tower where mysterious things beyond the imagination take place, and a miraculous electric wave tower that emits energy balls. Each of the completed towers overflowed with unique personality.

Date: Sunday, October 31, 2010

Location: Shioiri Higashi Elementary School Gymnasium, Arakawa Ward

Number of participating children: 99

Workshop Artist: Mie Miyamoto

(Assistant Professor, Tokyo Institute of Technology)

Completed the doctoral program in the Faculty of Fine Arts of Tokyo University of the Arts. Has been engaging in projects in Japan and Europe to create spaces with children while focusing on their sensory perception and experiences, including BLISS (2003-2004, Neuss and London), and the NEST series (2010) which was also held at Minami Senju Daini Kindergarten.



↑高さを競う



↑グループに分かれて作業



↑完成した塔は箱の中へ



↑独創的な手のひらの塔

## Workshop

### 02

## 塔の影をつくる

### Making a Tower's Shadows

影をなくした男の話や体遊びなどを通して、「もの」と「影」との関係を考えて後、大きなシートの上でさまざまな形をした自分の影を切り抜く「影とり」を行った。それらを汐入タワー建設予定地に並べ、これから立ち上がる汐入タワーの大きさや存在に思いを馳せた。

-

日時：  
第1回「影のおはなし」……2010年11月14日【日】  
第2回「影になってみる」……2010年11月28日【日】  
第3回「影で塔をつくる」……2010年12月11日【土】

場所 | 汐入ふれあい館・都立汐入公園

参加児童 | 計29人

-

ワークショップアーティスト：

宮元三恵【みやもと・みえ / 東京工科大学 准教授】

Through a story about a man who lost his shadow and body play, the children were given the chance to think about the relationship between things and their shadows. Afterwards, they cut various shaped shadows of themselves out of a large sheet. They then took the cut-outs and lined them up at the planned construction site of the Shioiri Tower and thought about the size and meaning of the tower that was about to be built.

-

Dates:  
1→→“Story About Shadows” .....Sunday, November 14, 2010  
2→→“Becoming a Shadow” .....Sunday, November 28, 2010  
3→→“Making a Tower with Shadows” .....Saturday, December 11, 2010  
Location: Shioiri Fureaikan, Metropolitan Shioiri Park  
Number of Participating Children: 29

-

Workshop Artist: Mie Miyamoto:  
(Assistant Professor, Tokyo Institute of Technology)



↑いろいろな影をつくる



↑影遊びをしてみる



↑ビニールシートに自分の影を描いてみる



↑完成した影たち  
←塔の建設予定地で影の実験



↑みんなで塔の影をつくる

# Workshop 03 塔のおはなし Story about a Tower

汐入タワーの完成前に子どもたちと、塔のお話を自由に想像しながら絵本を制作した。建設資材が足りなくなったため、友人の東京タワーからその身の鉄骨を分けてもらったり、スカイツリーとケンカをするなど、夢あふれる物語が盛り込まれていた。

日時:

第1回「おはなしづくり」……2010年12月12日【日】

第2回「おはなしをつくる」……2010年12月18日【土】

第3回「みんなで絵本を読む」……2010年12月19日【日】

場所: 荒川区汐入小学校多目的室

参加児童: 計28人

ワークショップアーティスト:

連沼昌宏 [はすぬま・まさひろ / 美術家, 記録写真家]

1981年生まれ。2010年, 美術博士号取得[東京藝術大学]。主な活動に「鳩とのフィールドワーク」[2004年, 上野公園], 「高松次郎『工事現場の堀の影』の再制作」[横浜トリエンナーレ2005]「斜面の自画像」[2010年, 長野木崎湖]など。

Before the completion of the Shioiri Tower, a picture book about a tower was created with the children through free imagination. The completed book was full of dream-like stories. For example, the new tower runs out of construction materials and has to ask its friend, Tokyo Tower, to share some pieces of its steel frame, and it also gets into a fight with the Sky Tree.

Dates:

1→「Story Making」……Sunday, December 12, 2010

2→「Making a Story」……Saturday, December 18, 2010

3→「Reading Picture Books Together」……Sunday, December 19, 2010

Location: Multipurpose Room, Shioiri Elementary School, Arakawa Ward

Number of Participating Children: 28

Workshop Artist: Masahiro Hasunuma (Artist, Documentary Photographer)

Born in 1981. Received a Ph.D. in Fine Art in 2010 at Tokyo University of the Arts. His main activities include Fieldwork with Doves (2004, Ueno Park), Reproduction of "Construction Site Shadows" by Jiro Takamatsu (2005 Yokohama Triennale), and Self-Portrait on an Inclined Plane (2010, Lake Kizaki, Nagano Prefecture).



↑絵本のおはなしを考える



↑塔のおはなしの1シーンを描く



↑みんなで絵本をつくる



↑もう一つの塔の物語



↑夕日にたそがれる塔



↑グループごとに絵本の発表会



# Workshop 04 アートコンストラクター講習会 Art Constructor Training

アートコンストラクターとは、美術の制作において作家をサポートする技術者。土木・建設技術に加え、美術制作という場の空気を読み臨機応変に動ける勤や現場力が求められる。本講習会では、さまざまな現場に従事してきたゲストを招聘し、レクチャー、トーク、ワークショップ、実習などを通じて制作現場における知の発展を目指した。

日時 / 講師:

第1回「アートコンストラクター入門」……2010年10月30日〔土〕

講師=小山田徹 [こやまだ・とおる]

第2回「アートコンストラクター実習①」……2010年11月14日〔日〕

講師=杉山至 [すぎやま・いたる]

第3回「アートコンストラクター実習②」……2010年11月27日〔土〕

講師=杉山至 [すぎやま・いたる]

場所: 南千住区民事務所東部ひろば館, 都立汐入公園

参加者: 計34人

An Art constructor is a technical personnel who supports an artist in the creation of artwork. Required skills include civil and architectural engineering skills as well as the instinctive ability to maneuver competently on site by picking up on what is being needed during the art-making process. By welcoming invited guests with experience working at various art-making sites, and through lectures, discussions, and workshops, these training sessions strove to help participants develop their knowledge about their onsite knowledge.

Dates / Instructors:

1→→ "Introduction to Art Constructing"……Saturday, October 30, 2010

Instructor: Toru Koyamada

2→→ "Practical Training for Art Constructor (1)"……Sunday, November 14, 2010

Instructor: Itaru Sugiyama

3→→ "Practical Training for Art Constructor (2)"……Saturday, November 27, 2010

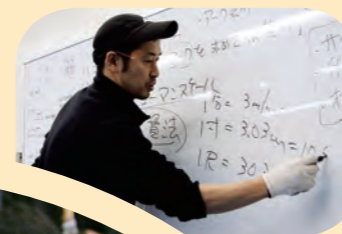
Instructor: Itaru Sugiyama

Location: Minamisenjyu Kumin Jimusho Tobu Hirobakan, Metropolitan Shioiri Park

Number of Participants: 34



↑スライド丸ノコ講習



←ゲスト講師,舞台美術家の杉山至さん



←美術家・小山田徹さんのレクチャー, テーマは「共有空間の獲得」



↑ウッドデッキ制作



↑箱づくりワークショップ



↑完成したウッドデッキで昼食

## 塔を建てる

### Shioiri Tower Construction

隅田川河岸に佇む「汐入タワー」。この建設の過程には地域内外のさまざまな協力があつた。2011年1月に建設作業は始まり、アートコンストラクター講習会の受講者や地域のボランティア参加者によって進められた。また大人のみならず、子どもたちも作業現場の清掃や土嚢制作などをサポートした。

この汐入タワーが地域に根付くことを願い、建設にあたっては「上棟イベント」などの式典なども行った。そして汐入タワーは2カ月の建設作業を経て、3月20日に完成。竣工式は3月11日に発生した東日本大震災の影響を考慮して中止され、4月8日に改めて一般公開を迎えたのだ。

対岸に現れる東京スカイツリーと対峙する、河辺に佇む木造の展望塔「汐入タワー」。展望台へと続く螺旋状のゆるやかなスロープを登り終えると、そこには東京スカイツリーが現れる。汐入タワーの設置期間は3年間。ゆるやかに流れる隅田川を眺めながら、刻々と変化する東京の街並みを概観する。

-

日程：2011年1月～4月

Shioiri Tower stands on the bank of the Sumida River. In the process of building it, many people, both local and from other areas, offered their cooperation. Students of the art constructor training seminar and local volunteers participated in the actual construction, which began in January 2011. Not only adults, but children, too, helped by cleaning the construction site and making sandbags.

In hopes that this Shioiri Tower will take root in this community, programs such as “A Ridgepole-Raising Ceremony” were held. The tower was finally completed after two months of construction, on March 20. A ceremony to celebrate its completion was canceled in consideration of the affects of the Great East Japan Earthquake that took place on March 11, and the tower was formally opened to the public on April 8.

The Shioiri Tower is a wooden observation tower that stands facing the Tokyo Sky Tree, which is being constructed on the opposite bank of the Sumida River. Climb all the way to the top of its gradual ramp that connects to the observation deck, and the Tokyo Sky Tree will appear straight ahead. The Shioiri Tower is scheduled to stay erected for three years. From it, people will be able to survey the ever-changing Tokyo cityscape while also enjoying the view of the quietly flowing river.

-

Schedule: January–April, 2011





1.15  
汐入タワー工事スタート  
Start the construction



1.21  
事務所設営  
Set up an office



基礎工事・鉄筋骨組み



町会のみなさんも見学



型枠に生コンクリートを流し込む



1.19  
測量  
Survey



1.24-2.7  
基礎工事  
Ground Work



型枠づくり



生コンクリート流し込み

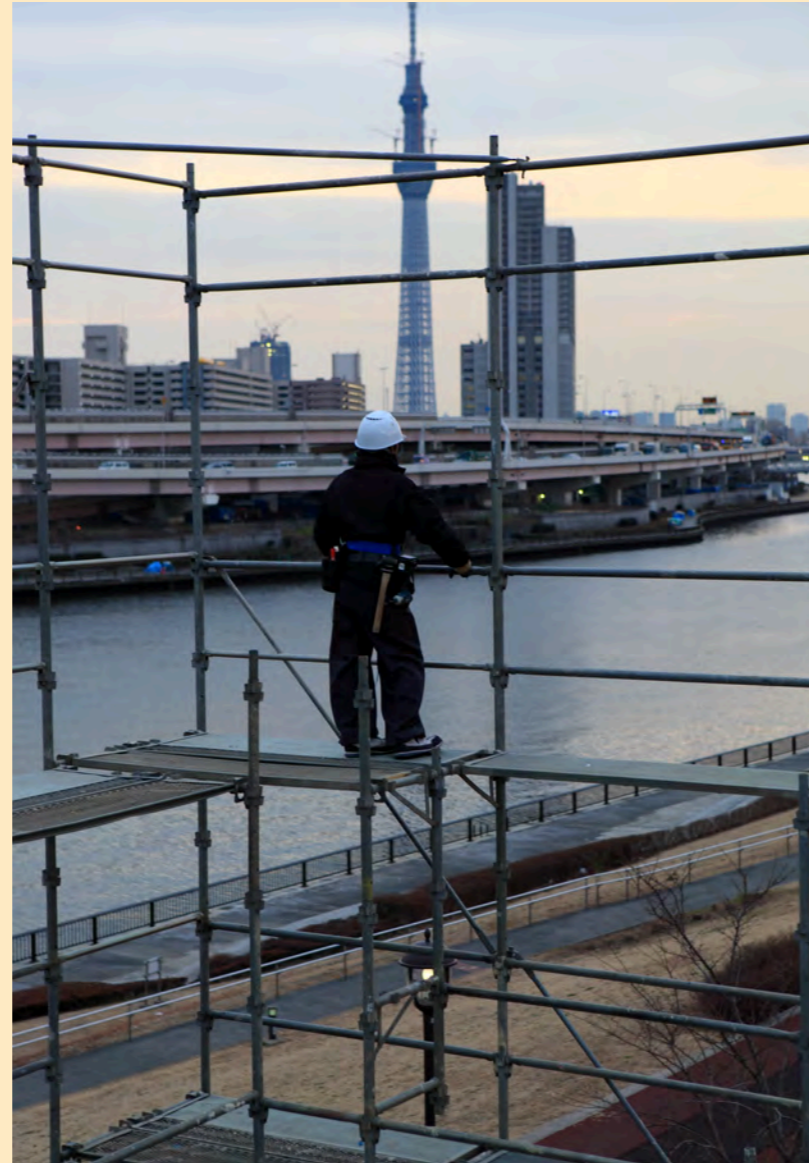




基礎の立ち上がり部分に生コンクリートを流し込む,立ち上がり生コン打ち



雑草防止用土嚢づくり,近所の子どもたちもお手伝い



2.10  
足場組み上げ  
Build Scaffolding



2.16,17  
組み立て  
Construction



アートコンストラクターたちの休憩



たくさんの子どもが土嚢づくりを手伝った





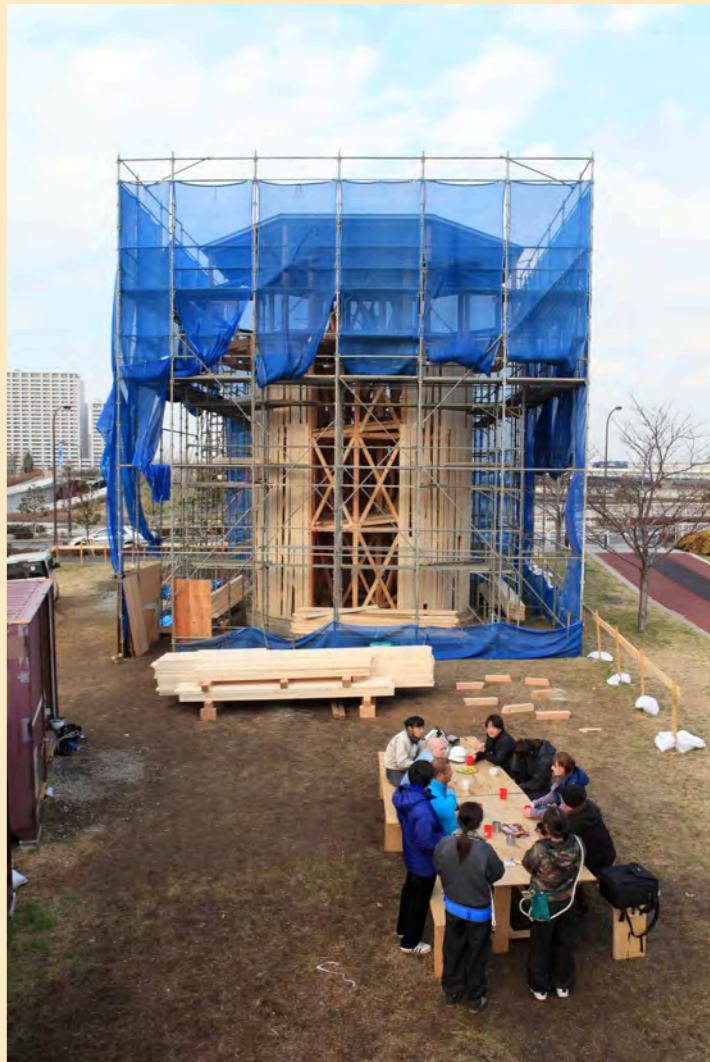
2.19  
上棟イベントには近隣の方々を含む  
約1500名の人たちが参加した  
Ridgepole-raising Ceremony



アートコンストラクターによる外壁工事



2.26, 3.5  
組み立て  
Construction



3.8  
外壁取り付け  
Built external walls



3.9-19  
展望デッキ工事  
Observation Deck, finishing



町会役員で元大工の平山さんもお手伝い



土嚢づくりも大詰め



子どもたちも箱づくりをお手伝い



「手のひらの塔」を箱に入れ、  
汐入タワーのスロープに飾る



完成間近,竣工式の打ち合わせ



工事も大詰めで作業も慣れてきた  
アートコンストラクター



最終段階,ウッドデッキづくり



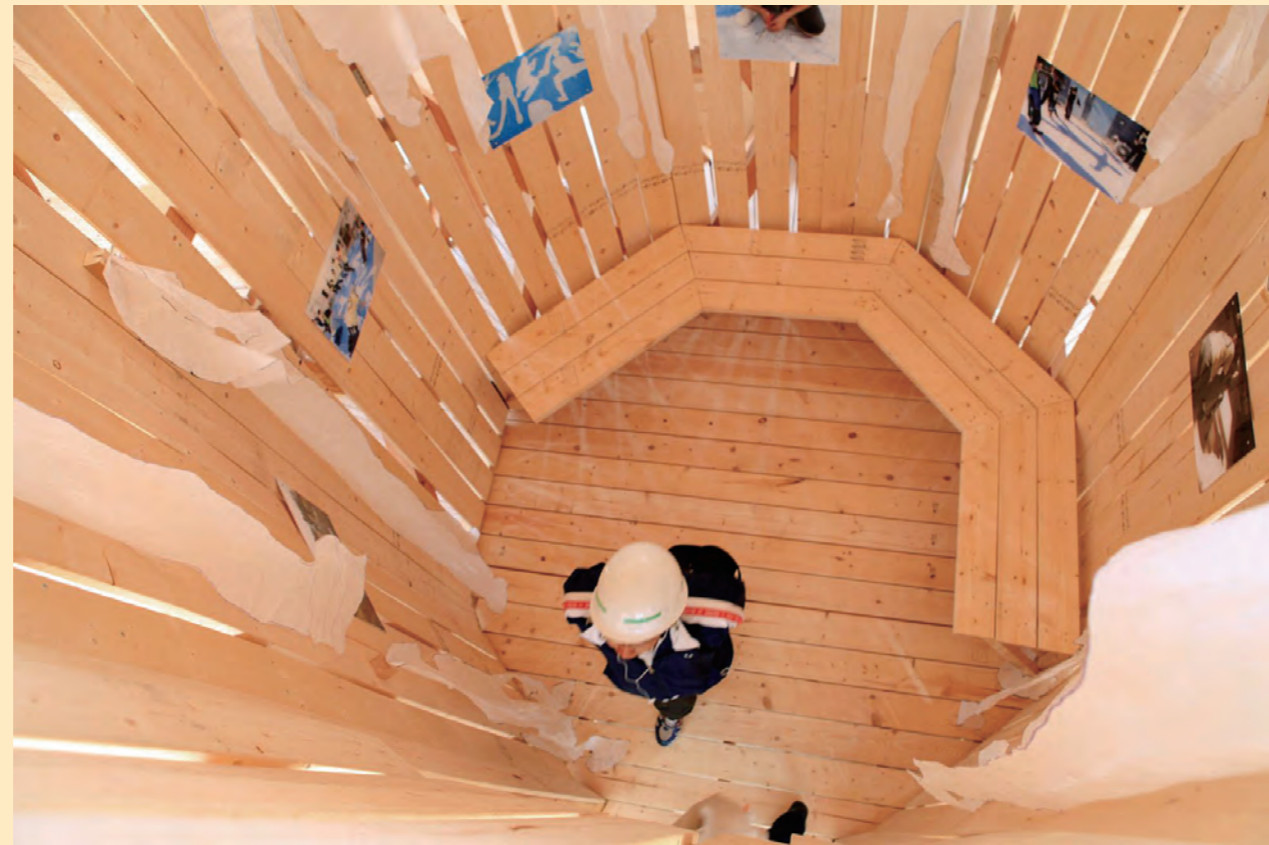
ワークショップ写真を展示



内覧会



展望台にて



3階はワークショップ「塔の影をつくる」の展示室



2階はワークショップ「塔のおはなし」の展示



3.20  
竣工  
Construction Completed

# WORLD IN PROGRESS

## ワールドインプロGRESS

World in Progress

川俣は世界各地で都市と水辺の関わりを検証するアートプロジェクトを展開している。ナント(2007年,フランス), エッセン(2010年,ドイツ), カマルグ(2011年~,フランス), リヨン(2011年~,フランス)で都市を概観する展望塔を設置する。高みから見渡す風景は都市のもう一つの姿を映し出す。

Kawamata has been engaged in art projects that examine the relationship between a city and its waterfronts in various parts of the world. He has built observation towers for viewing the cities of Nantes (2007, France), Essen (2010, Germany), Camargue (2011-, France), Lyon (2011-, France). The towers show a new sight of a city by showing a broad view of the landscape from above.

38>>45

## オブザヴェートリー（展望台）

Observatory

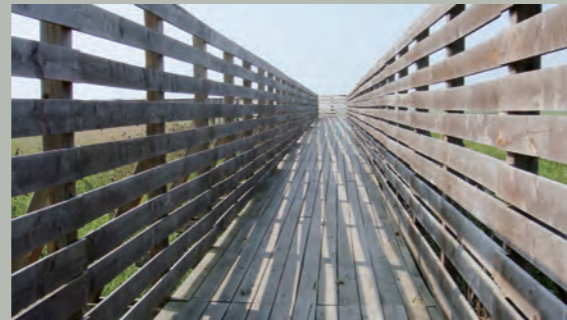


2007年ー2009年4月 / ナント [フランス]

-  
フランスにおいて先進的な文化事業を展開する都市ナントで2007年より実施されている「エスチュエール・ナント〈〉サン・ナザール 2007-2009-2012」の2007年と2009年に参加。ロワール河沿岸部で現代美術のインスタレーション作品展示をビエンナーレ形式で実施している（2011年は2012年に延期）。近年、「クリエイティヴ・シティ」といった都市の文化事業を産業政策として展開する動向があり、これらは観光産業とも連動しながら文化の産業化を推進している。文化の営みが産業と交錯するとき、そこに現れるものは何か。

-  
2007-April 2009 / Nantes [France]

-  
Kawamata participated in a project of 2007 and 2009 which has been held since 2007 called ESTUAIRE Nantes 〈〉 Saint Nazaire 2007-2009-2012 in Nantes, a city in France known for advancing various forward-thinking cultural projects. This project involves exhibitions of contemporary art installation pieces along the Loire River front in a biennale style. (The edition scheduled for 2011 was postponed to 2012). Recently, there has been a trend to use urban cultural projects such as those entitled “Creative City” also as an industrial policy, and these projects promote the industrialization of culture while linking up with the tourism industry as well. Where do we find ourselves when cultural and industrial activities mix?



## ウォークウェイ&タワー Walkway & Tower

2010年10月 / エッセン [ドイツ]

-  
欧州文化首都2010の関連事業として実施されたアートプロジェクト「エムシャー Kunst 2010」。ここで川沿いに展望塔とウッドデッキの建設を行った。プロジェクトが実施された旧産炭地であるエッセン近郊のエムシャー河流域は、以前は環境汚染の激しい地域であった。近年の環境保全活動によって川は汚染される前のきれいな状態に戻っている。環境汚染時代から続く、都市の暗く黒いイメージの払拭にアート作品が投入される。都市政策と環境保全との関わりが注目される。

-  
October 2010 / Essen [Germany]

-  
EMSCHERKUNST 2010 is an art project which was held in relation to the European Capital of Culture of 2010. As part of this project, Kawamata built an observation tower and a wooden deck along a riverfront. The area where the project was held, which is along the Emscher River in the suburbs of Essen, was a former coal mining area and used to be a heavily polluted region. Through the recent environmental conservation activities, the river has been restored to the clean state it was in before the pollution began. Art has been added to the effort to eliminate the dark and dreary image of the city that still remains from the polluted days. Many are watching with anticipation what the cooperation between urban policies and environmental conservation efforts can do.



## カマルグプロジェクト Camargue Project

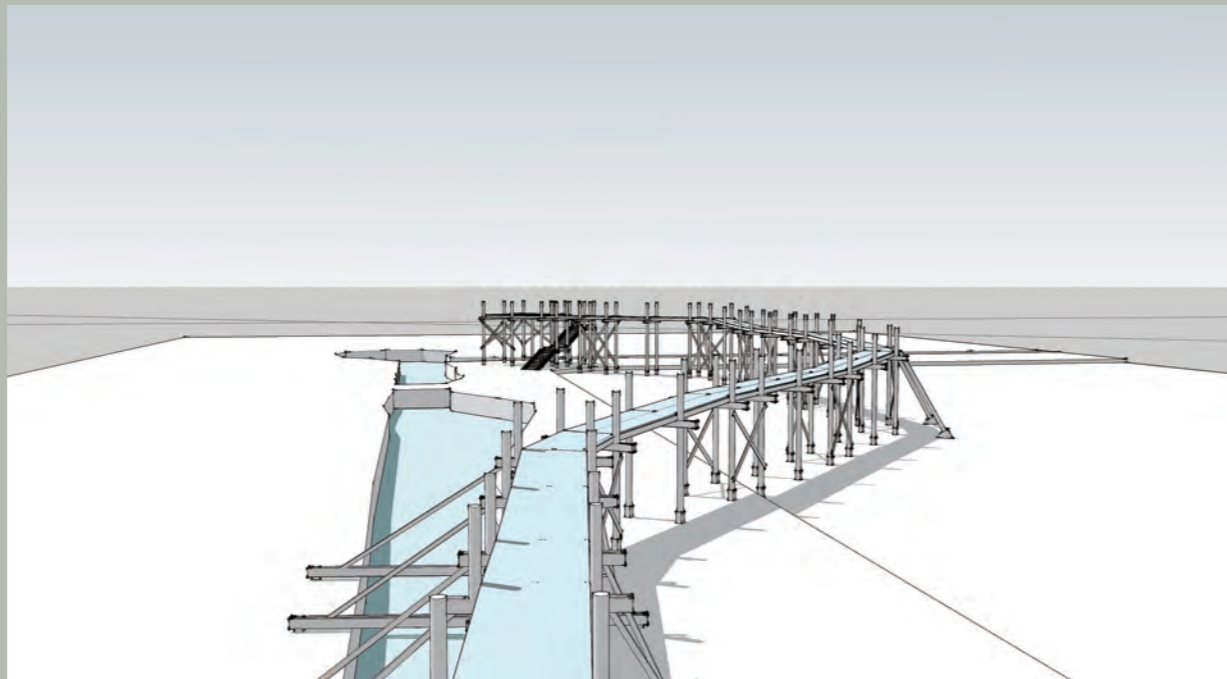
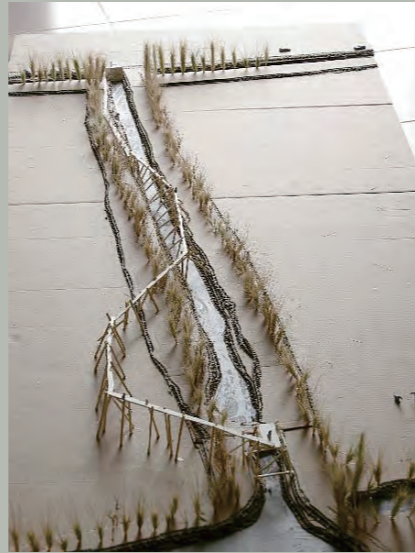


2011年4月-2012年7月 / カマルグ [フランス]

-  
南フランスに広がる広大な湿地帯カマルグ,ここには独自の生態系を持つ植生があり自然保護区域として指定され,近年は観光名所としても注目されている。ここ国立自然保護区域でさまざまな地域から訪れる学生たちとワークショップ形式でアートプロジェクトを立ち上げる。2013年の欧州文化首都,マルセイユの関連事業として実施。自然保護区域内に水辺と親しむ展望塔やテラスなどを複数箇所に設置する。

-  
April 2011-July 2012 / Camargue [France]

-  
Camargue is an extensive marshland that spreads in the south of France. As the area contains vegetation with a unique ecosystem, it has been designated as a natural reserve and has recently been gaining popularity as a new tourist destination. At this national nature preserve, many art projects will be launched in the style of workshops involving students who visit from various regions. This will be held as part of projects promoted by the city of Marseille, which was selected as the European Capital of Culture for 2013. Kawamata will build, in multiple locations of the natural reserve, structures including an observation tower and terrace that will fit in naturally with the waterfronts.



## リヨンプロジェクト Lyonnais Project

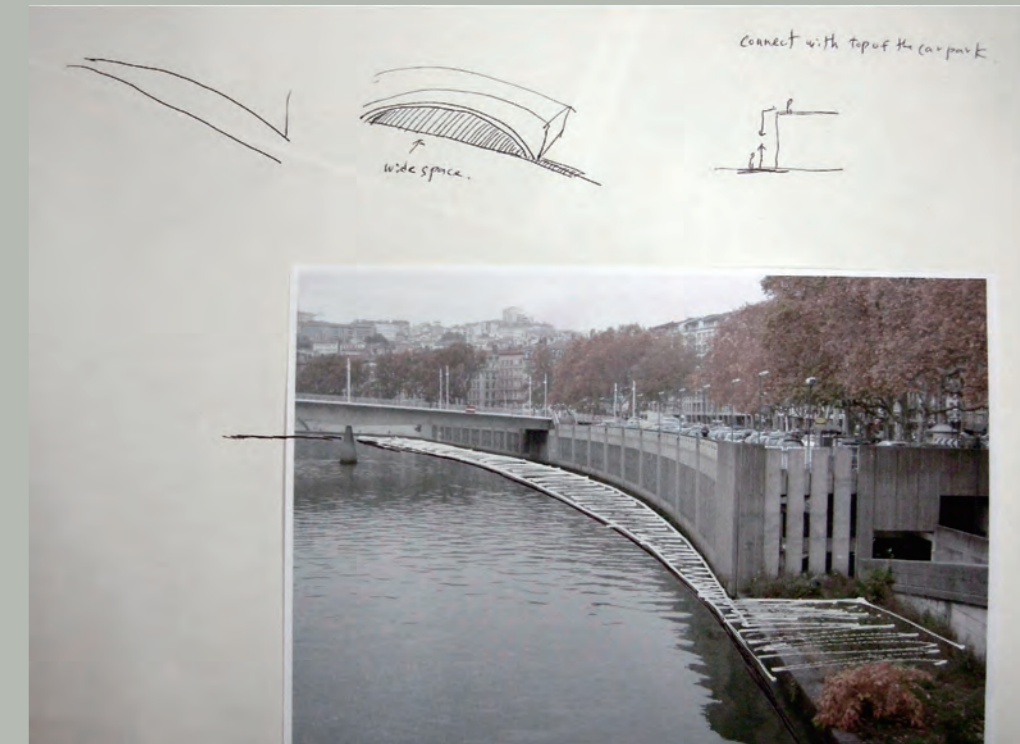


2011年6月-2013年6月 / ソーヌ川,リヨン[フランス]

-  
フランス,リヨンを「グラン・リヨン」と称して大規模な環境整備事業を立ち上げた。リヨンを流れるソーヌ川沿いの河川整備計画に数名の現代美術家を起用するパブリックプロジェクトが企画され,そこに参加する。河岸に橋,テラス,遊歩道,展望台など6つの木造の構造物を6地区に造園家や建築家とともにプランを出し合いながら組み立てる。2013年6月に完成予定。公共的な場所に恒久設置される木の構造物。リヨンの河川沿岸に新たな風景が生まれる。

-  
June 2011-June 2013 / River Saone, Lyon [France]

-  
The city of Lyon of France has launched a large-scale environmental development project entitled Le Grand Lyon. A river development project along the Saône River, which flows through the city of Lyon, has been planned. This public project has invited several prominent contemporary artists, one of them being Kawamata, to take part. In six areas along the river bank, Kawamata will build six structures including a bridge, terrace, boardwalk, and observation tower, while developing plans jointly with a landscape artist and architect. The wooden structures, which will become permanent part of Lyon's public space and create a new landscape along the river bank, are scheduled to be completed in June 2013.





## プロジェクトスタッフ&サポーター

Staff and Supporters

### プロジェクトスタッフ

【プロジェクトリーダー】

川俣正

【マネージャー】

日沼智之

【ワークショップアーティスト】

宮元三恵 / 蓮沼昌宏

【アートディレクター】

加藤亮介

【コーディネイター】

山口祥平

【プロジェクトアーキテクト】

田中皇彦

【プロジェクトスタッフ】

水谷朋代 / 野地真隆 / 芝山祐美 / 太田泰友 / 嘉茂暁人 / 松宮早紀

【東京アートポイント計画ディレクター】

森司

【東京アートポイント計画プログラムオフィサー】

大内伸輔 / 坂本有理

### 協力者 [各50音順]

【団体】

相田有里絵 / 青木あずさ / 青木幸 / 赤羽俊平 / 秋本良樹 / 浅沼秀治 / 飯田浩康 / 飯田祐未子 / 筏津慎也 / 井口真理子

池山洋二 / 泉恒希 / 磯和漣子 / 市村朋子 / 伊藤雄介 / 海老江重光 / 大岩久美子 / 大西真 / 奥健祐 / 小田善久 / 葛西恵

金井隆晴 / 嘉茂暁人 / 川上かつ江 / 菊地拓児 / 菊本有紀 / 北爪沙苗 / 木下仁瑞佳 / 工藤誠也 / 河内山寛之 / 小西美穂

小林健文 / 小森世菜 / 小山未来 / 小山田徹 / 斎藤琴子 / 坂本幸夫 / 櫻井駿介 / 佐藤貴彦 / 佐藤康満 / 實藤亮太 / 澤田知美

島田真衣 / 下館芽依 / 下西奏 / 白川忠弘 / 杉山至 / 鈴木雄介 / 鈴木陽子 / 鈴木陽太 / 須田真実 / 須長理恵 / 妹尾恵

関健太郎 / 関越河 / 関根フミ江 / 園田美音 / 大門千夏 / 高橋葵 / 高橋利幸 / 高橋寛 / 高橋麻衣 / 田中利菜 / 谷川俊太郎

田畑実喜子 / 千原凌也 / 土棟智仁 / 経田葵 / 寺嶋広昭 / 富部浩之 / 長坂実早紀 / 中島清貴 / 中水かおる / 長山茂樹

西村洋恵 / 野村政之 / 萩原賢蔵 / 畑一成 / 服部真吏 / 原拓也 / 原徹 / 樋田勇 / 樋田桂一 / 平井花朋 / 平澤祐子

平山得治 / 深田英敏 / 藤井憲一 / 舟山貴士 / 前田ちひろ / 前原緒璃艶 / 増井宏文 / 密城紀絵 / 南川憲二 / 宮下郁

村田萌菜 / 山口礼子 / 山田真弘 / 山本健 / 弓木慶彦 / 吉田武司 / 柳昇汎 ほか

【団体】

荒川区立汐入小学校 / 荒川区立汐入東小学校 / 荒川区立第三中学校 / 汐入公園サービスセンター / 汐入胡録和太鼓 / 汐入父親の会リバーパーク汐入町会

## 川俣正

Tadashi Kawamata

1953年生まれ。アーティスト。1994年～2005年、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授を経て、現在、パリ国立高等芸術学院教授。

Born in 1953. Artist. After serving as a professor in the Department of Inter Media Art at Tokyo University of the Arts from 1994 through 2005, currently is a professor at Ecole Nationale Supérieure des Beaux-Arts in Paris.

## 川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め

主催	東京都 東京都文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) 一般社団法人CIAN
後援	荒川区 荒川区教育委員会 リバーパーク汐入町会 — 東京アートポイント計画とは 「東京アートポイント計画」は,東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで,東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し,「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。

## 川俣正・東京インプログレス—隅田川からの眺め ドキュメント2010

企画	東京都 東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) 一般社団法人CIAN
監修	川俣正 森司(東京文化発信プロジェクト室)
編集	山口祥平(一般社団法人CIAN) 坂井基樹 + 佐藤恵美 + 竹見洋一郎(坂井編集企画事務所) 坂本有理(東京文化発信プロジェクト室)
編集補佐	青木彬 大内伸輔(東京文化発信プロジェクト室)
デザイン	加藤亮介
写真	蓮沼昌宏 富田了平
翻訳	株式会社アーバンコネクションズ
印刷	株式会社アイワード
発行	東京都文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) 東京都墨田区両国3-19-5シュタム両国5階 —
発行日	2011年11月18日 — 著作権上の例外を除き,本書の全部または一部を無断で複製複製(コピー)することは法律で禁じられています。

## Tadashi Kawamata Tokyo in Progress

Organized by	Tokyo Metropolitan Government Tokyo Culture Creation Project Office (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture) CIAN
Support by	Arakawa Ward Arakawa Ward Board Of Education River Park Shioiri Neighborhood Association — What is Tokyo Artpoint Project ? The Tokyo Artpoint Project is a shared art project between artists and residents, promoting collaboration across different disciplines and locales in the city.In this project, an “Artpoint” represents a crossover point where people, towns, and activities meet and connect through art.

## Tadashi Kawamata Tokyo in Progress Document 2010

Planned by	Tokyo Metropolitan Government Tokyo Culture Creation Project Office CIAN
Supervised by	Tadashi Kawamata Tsukasa Mori (Tokyo Culture Creation Project Office)
Edited by	Shohei Yamaguchi (CIAN) Motoki Sakai + Emi Sato + Yoichiro Takemi (SAKAI Hensyu) Yuri Sakamoto (Tokyo Culture Creation Project Office)
Editorial Assistance by	Akira Aoki Shinsuke Ouchi (Tokyo Culture Creation Project Office)
Editorial Design by	Ryosuke Kato
Photo by	Masahiro Hasunuma Ryohei Tomita
Translated by	Urban Connections
Printed by	iWORD Co., Ltd.
Published by	TOKYO CULTURE CREATION PROJECT Address:3-19-5 Ryogoku, Sumida-ku, Tokyo —
Date of Publication	November 18, 2011 — ©Tadashi KAWAMATA ©TOKYO CULTURE CREATION PROJECT Printed in Japan All rights reserved